

[成果情報名] 荒沼における特定外来魚の分布

[要 約] 荒沼で電気ショッカーボートによる外来魚駆除を実施した結果、オオクチバスとブルーギルの再生産を確認した。また、オオクチバスの推定生息個体数は2017年より2024年は大きく減少し、ブルーギルの推定生息個体数は2017年より2024年は増加した。

[部 署] 山形県内水面水産研究所・内水面水産振興部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] オオクチバス、ブルーギル、電気ショッカーボート、駆除

---

### [背景・ねらい]

本県の河川及び湖沼において、ブラックバスは昭和50年代から見られるようになり、それ以降分布域が拡大している。外来魚による内水面漁業資源への被害拡大が危惧されており、内水面漁業協同組合による駆除、密放流や再放流禁止の啓発活動などが実施されている。1995年にブラックバスおよびブルーギルの移植放流が禁止（山形県内水面漁業調整規則）、さらに2017年には内水面漁協が管理する漁業権のある漁場において採捕したブラックバス等のリリースが禁止された（山形県内水面漁場管理委員会指示）。

2017年以降、民間コンサルタント会社が保有する電気ショッカーボートを活用して山形県内水面漁業協同組合連合会と連携して外来魚駆除を共同で行っているが、2024年度は荒沼（山辺町畑谷）で実施した。荒沼での駆除は2017年以来であるため、その結果も併せて報告する。

### [成果の内容・特徴]

- 1 荒沼における電気ショッカーボートによる外来魚駆除は、2017年8月25日、2024年11月1日に実施した。
- 2 駆除したオオクチバスの全長組成を図1に示す。2017年、2024年とも当歳魚とみられる群が最も多く確認されたことから、オオクチバスは荒沼で再生産していたと考えられる。
- 3 駆除したブルーギルの全長組成を図2に示す。5 cmにピークがある当歳魚とみられる群が確認されたことから、ブルーギルも荒沼で再生産していたと考えられる。
- 4 除去法（デルーリ法）により荒沼におけるオオクチバスとブルーギルの生息個体数を推定した。オオクチバスの推定生息個体数は2017年は1,116尾であったが、2024年は77尾と大きく減少した。一方、ブルーギルの推定生息個体数は2017年は141尾であったが、2024年は356尾と増加した。（表1）

### [成果の活用面・留意点]

- 1 オオクチバス、ブルーギルともに荒沼で再生産していたため、産卵場所を探し、ライトトラップにより仔稚魚を駆除する等が有効であると思われる。
- 2 外来魚の生息数を減らすためには、定期的に電気ショッカーボート等による駆除を実施し再生産状況を把握するのが望ましい。
- 3 2024年の駆除実施日が11月1日であったため、越冬に向けて低活動期に入っていたことから駆除数が少なかった可能性がある。

[具体的なデータ]

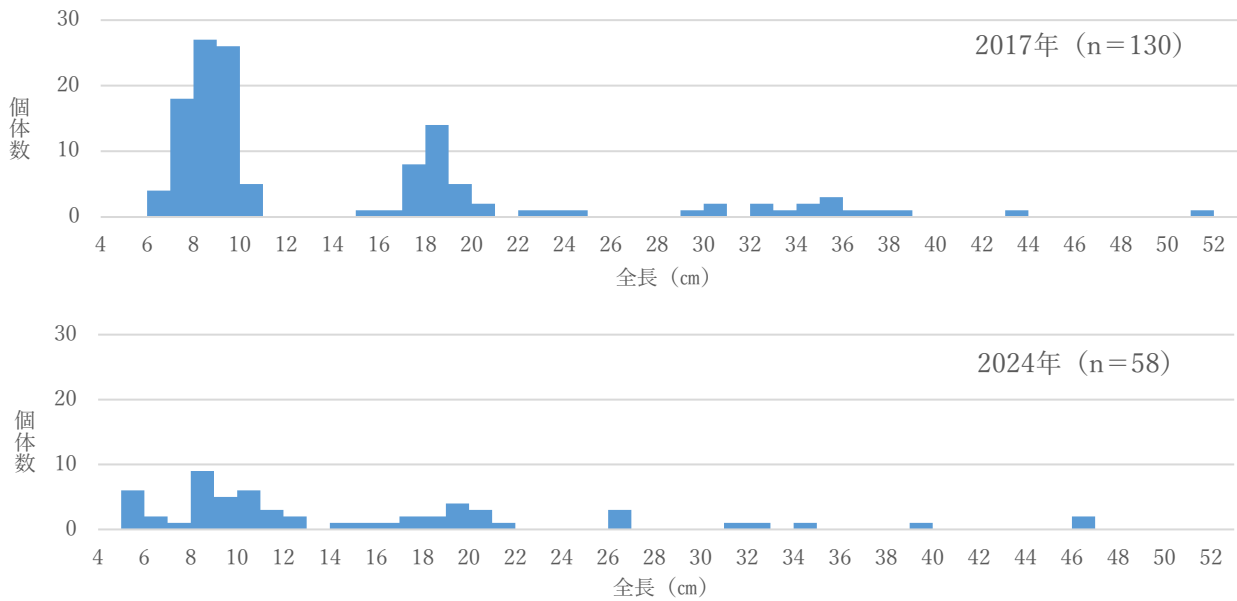


図1 荒沼で駆除したオオクチバスの全長組成

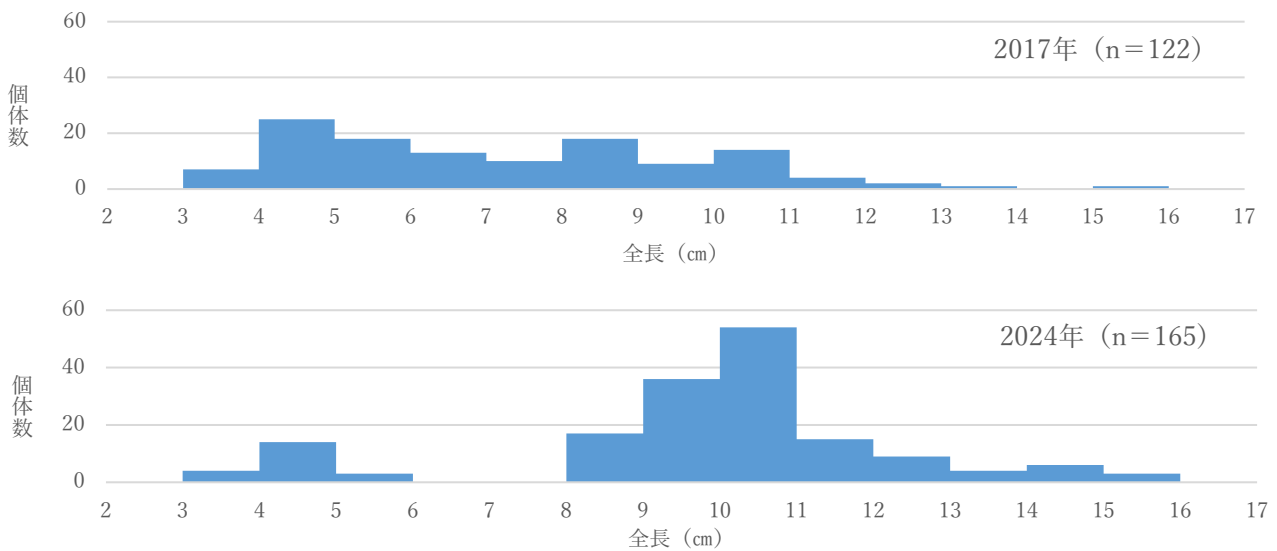


図2 荒沼で駆除したブルーギルの全長組成

表1 荒沼における電気ショッカーボートによる駆除結果と推定生息尾数

	調査年	調査月日	採捕尾数			総採捕尾数 尾	水温 °C	推定尾数 尾
			1回目	2回目	3回目			
オオクチバス	2017	8月25日	132	117	-	249	26.3	1,162
	2024	11月1日	29	24	5	58	15.4	77
ブルーギル	2017	8月25日	89	33	-	121	26.3	141
	2024	11月1日	63	80	22	165	15.4	356

[その他]

研究課題名：カワウ・外来魚等対策事業

予算区分：県単

研究期間：令和6年度（平成29年度～令和6年度）

研究担当者：河内正行、山形県内水面漁業協同組合連合会

発表論文等：なし